

辰野本高報

每月三回七ノ日發行
 定價壹枚貳錢郵稅壹錢
 廣告料壹行壹回貳拾錢
 發行所 濱田日報社
 編輯印刷人 濱田正夫
 大阪市南區安堂寺橋通二丁目一番地

申上候

◎般販期の七月に入つて以來軟勢を續けた糖界は遂に急轉して活躍を始めた。一時の安値より分蜜七十錢精糖六十五錢と奔騰した僅か三四日の間である。九、十月限分蜜十八圓四十錢精糖七月二十三日前であつた、漸落を續ける事約十日意外なる安相場を現はして一般意想外の結果に落込んだのに皆驚いた。

◎九、十月分蜜十八圓精糖二十二圓四十錢の取引を見るに到りて殆んど其進むべき方向に迷はされた時は盛夏の七月一般地方の手當薄なりと言ふの外新しき材料を持たなかつた。

◎偶精糖五マークと云ふ珍取引を見るに及び愈市場は渾沌として益氣迷を深ふするのみであつた精糖の五マークと言へば分蜜の五マークと言ふと同じであるけれどあまり感心の出來ない取引であると言いたい様な氣もする、若しも此後此五マークを標準としての精糖取引が益廣く行はれるとすれば大日本精糖の如き相場の上に於て多少禍を受

ける事であらう。

◎二十二日新高は精糖二十二圓五十錢を賣出した初陣の門出は市況軟弱の時であつただけ甚だ苦辛に見受けた。

◎殆んど精糖に依て崩れた相場は精糖により昂騰を始めた俄然人氣は逆轉した下げ相場の約十日なりしに反し此上げ相場は倍額の速度を以て進んで來た此上如何なる速度を以て昂騰するであらうか雨か風か全く觀察し能はざる場面と變りた。

◎時は舊盆前にして手薄にして軟勢の相場に安臥せし地方筋は一變反動の急激の氣勢に際會して稍や周章の色あり中央市場の思惑者に大なる力を添へるに至つた即相場を強めしむる味方たる状態となつた分蜜九、十月十八圓六七十錢 精糖△九、十月二十三圓五錢。

◎逆轉橫轉流行の世の中なり糖界多事一刻も油斷の出來ざるは言ふ迄も無い賣るべき機會を狙ひつゝあつた日本製糖は時は來れり機は熟せり二十三圓二十錢を發表した此時場面は進展して事無く賣られた。

明治、新高帝國共現荷の出捌けに腐心して居るけれどまだ△の敵で無い

臺灣亦努力せねばならぬ。

五社協定云々も傳へられて居るけれどこれは事實問題であつて容易に實現せらるべきものではあるまい、各社の戦は既に潜水艇戦に移りて居る重ねて言ふ各社自重せよ。

◎一月より六月迄全國出庫は

白糖	一三、四一	平均一ヶ月	三、二五
分蜜糖	五九、七三		四、八七
三温	七三、二五		三、一〇
印美双	三、七〇		二、〇四
二番糖	一三、七〇		三、〇四
赤糖	一八、四四		三、〇四

右により分蜜三温一ヶ月平均十萬七千〇八十一擔五月份の五ヶ月間に於ける一ヶ月平均十萬七千九百五十八擔に比して八百七十七擔の減少を示して居る併し七月及八月に於て増加を見るならうされど又相場の昂騰により需要の減退を豫期せられないでもない。

◎今年臺灣積出分蜜各社別に示せば

濠洲輸出	(單位擔)
鹽水	一六、四二
東洋	一五、六一

(七月十日迄)

新與	八、六九
帝國	一六、九四
林本源	二五、〇一
明治	一五、四四
臺灣	一七、九六
合計	五七、六〇
ウアンクーパー輸出	
東洋	四七、〇〇
帝國	一六、九五
臺灣	一七、七四
新高	二五、六八
明治	三三、六〇
合計	三二、一七
香港輸出	
鹽水	一五、〇〇
東洋	四、八〇
合計	一六、八〇
大連輸出	
明治	一、六五
合計	九七、三二
白糖輸出	
合計	一三、七九
總計	一〇八、〇四

本年義務輸出一、五二三、六九八擔に付差引猶四三三、六五八擔となる勘定である。

◎黒糖は乃公の出馬未だ早しと其銳鋒を潜めて時の到るを待て居る昨日の入札は琉球二歩十錢六厘七毛、荷主は依然として強く總押へとなつた如何に其潛勢力を抱持して居るかは窺はれる。

六月卅日迄沖繩產糖積出明細
 黑糖合計 五一〇、九四七挺

仕向地

鹿兒島 一三九、七二六

大 阪 一五一、〇九三

名古屋 三三六、四四九

京 濱 一八三、六七九

白下糖合計 二八、八五三

仕向地

鹿兒島 一九、一六九

大 阪 九、二九六

名古屋 三二〇

京 濱 六八

先島糖及白下合計 四〇、九四九

仕向地

鹿兒島 二、九九二

大 阪 三〇、三五九

京 濱 七、五九八

分蜜糖及赤糖合計 七七、三六六俵

仕向地

下 關 五、〇〇〇

大 阪 五四、六八一

名古屋 九、〇〇〇

京 濱 八、六八五

總 産 額 七九一、六八七擔

◎麥粉は大勢依然強硬にして九十月切

二圓三六七錢と昂騰し原料小麥亦十

一圓二十錢と奔騰した從て會社側高値

發表となり粉界愈活境に入った。

◎海外一高一低最近玖瑪は五弗二十五

仙瓜哇十月十八志六片大体に於て變らぬ處である。

北米合衆國に於ける六ヶ月間砂糖消費 (單位噸)

去年同期とに比し29,297噸の増加にして過去三十ヶ年の平均を越ゆる事3,8900%である

諸外國及布哇、ポートルコ、フキリツピンよりの輸入糖消費	1,665,798	1,613,244
ルイジアナテキサス糖消費	58,279	109,343
合衆國甜菜糖消費	410,536	382,736
裾物及楓糖等	3,120	3,113
合衆國大陸産糖消費合計	471,935	495,192
1/4-3/6全部消費量	2,137,733	2,108,436

◎瓜哇糖昨年四月一日より本年五月卅一日迄の積出數及び1913-14年と1914-15年各四月一日より五月末迄の積出數を示せば次の如し

瓜哇砂糖輸出 (單位噸)

仕 向 地	1613-14 産 糖		1914-15 産 糖		1915-16 産 糖	
	1/4-1913	3/5-14	1/4-1914	3/5-14	1/4-1915	3/5-16
和 蘭		105		11		413
英 國		200		551,114		251,868
佛 國		0		14,430		72,863
白 耳 義		0		815		0
ス エ ズ		0		0		19,871
ポートルコ		0		61,157		40,272
ヴァンクーバー		5,863		0		0
シンガポール		102,116		63,152		52,886
支 那		60,085		23,542		18,435
香 港		231,275		131,692		181,465
日 本		236,922		107,627		48,188
英 領 印 度		610,437		337,495		456,300
濠 洲		20,951		7,104		45,608
シ ャ ム		4,376		4,858		9,391
其 他		87		12		0
總 計		1,272,417		1,303,045		1,197,560

◎ウキレットグレイは歐洲戦後の英國砂糖政策に付て左の如く報じて居る
 西印度委員間に於て英國糖業の發達擴大を唱導せられたるが爲めに英國政府は主要自國産糖殖民地代表者を倫敦に召集してこれに關する會議を開いた會議は本月上旬終結した會議を終へて英國を去らんとする濠洲聯邦の首相は

本會議に付て語て曰く
 (一) 戦後五ヶ年間敵國砂糖の輸入を禁止する事
 (二) 五ヶ年經過後に於て敵國砂糖を輸入する場合一般稅率に更に五割の賦課稅を課する事
 (三) 互惠的協約無き中立國よりの砂糖輸入亦全じ

(四) 各同盟國より輸入糖に對しては一割二歩半英國植民地よりのものに對しては五割の減稅をなすべし
 右協議にして確定成立するに於ては英國の糖業並に植民地の糖業發達に利する大なるものである至極推稱に値すべき事である。

●大日本製糖會社製品

大阪倉渡シ〔壹俵百斤入〕
〔轉ガン値段〕

SA	五温	廿四圓七拾錢
SK	五温	廿參圓七拾錢
SL	五温	廿貳圓九拾錢
SB	四温	廿參圓七拾錢
SR	四温	廿參圓貳拾錢
ST	三温	廿貳圓七拾錢
SW	三温	貳拾貳圓參拾錢
SX	三温	貳拾壹圓九拾錢
SU	三温	貳拾壹圓六拾錢
SO	三温	廿壹圓五拾錢

御注文は成行にて御勉強致候

◇角砂糖廿五封度入
一封度ニ付 廿 參 錢

●臺灣製糖神戸製品

〔大阪又ハ神戸倉渡シ〕
〔壹俵百斤轉ガン〕

ESB	鹽水港製糖	拾八圓五拾五錢
TEA	帝國製糖	拾八圓五拾五錢
LSB	林本源製糖	拾八圓五拾五錢
TAB	臺灣製糖	拾八圓六拾錢
SAA	新興製糖	拾八圓五拾五錢
MS	山明製糖	拾八圓五拾五錢
NSA	新高製糖	拾八圓五拾五錢
TOB	東洋製糖	拾八圓五拾五錢
TBB	臺灣製糖	拾八圓五拾錢

●臺灣分蜜糖 大阪倉渡シ
直積

☆ M M M 四温 貳拾參圓拾 錢
☆ 〇〇〇 四温 貳拾貳圓七拾錢

新 MS_B 明製糖 拾八圓四拾錢

DN	二番糖	拾參圓六拾錢
NSM	二番糖	拾貳圓五拾錢
TOM	二番糖	品 切
SHB	同	品 切
TOM	赤 特上	拾四圓八拾錢
EBB	二番糖 特上	拾參圓八拾錢
TEC	二番糖	拾貳圓五拾錢
TOC	臺灣赤糖	拾 參 圓
NE	同	拾貳圓九拾錢

●マニラ糖 大阪倉渡シ
檜入三枚壹俵三、四十斤入

飛切 參號 拾 參 圓
上 參號 拾貳圓貳拾錢
次 品 拾壹圓七拾錢
アンペラ百斤俵 拾五錢高

●瓜哇赤双目糖(袋入)

上 品 品 切
●臺灣白糖
臺灣白双A印 廿參圓貳拾錢
同 白糖EK印 貳拾貳圓貳拾錢
●糖 蜜
△糖 蜜 九圓五拾錢
日出 全 九圓參拾錢
●北海道片栗粉 大阪倉渡シ
一等粉 七圓五拾錢
先物拾、拾壹月
●マカロニー
六十ポント入一箱 拾參圓貳拾錢

D 印 二六圓五十錢

受電略號(オス)カ、スス(キ)

